

経営課題4 「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくり

経営課題のための戦略

3 子どもの学ぶ力、生きる力の育成

具 体 的 取 組	
【予算算定額：76千円】	
1) 分権型教育行政の推進、教育課題解決への取り組み	・ H28取組内容 分権型教育行政を推進し、保護者や地域住民の学校教育への参加を促進し、その意向を学校運営に反映してより良い学校教育を推進するとともに、保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取り、学校だけでは解決できない横断的な課題への対応について学校を支援する。 ○ 分権型教育行政の推進 ・ 教育会議（区政会議・こども青少年部会）の開催：3回以上 ・ 区教育行政連絡会の開催：小学校、中学校各3回以上 ・ 区内17校園の学校協議会への教育委員会兼務職員の出席：各2回以上 ・ 学校協議会委員への研修会の開催：1回以上 ・ 区小学校長会・教頭会への出席・連絡調整：各11回以上 ○ 小学校の適正配置について具体的な検討を進める。
	・ 業績の目標 保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取った新規の取組件数：2件
	【予算算定額：(校長経営戦略予算)千円】
2) 学校園における福祉的課題をかかえる児童生徒への支援	・ H28取組内容 社会福祉等の専門的な知識や技術に加えて教育分野に関する知識を有するスクールソーシャルワーカーを区内市立幼稚園及び小・中学校へ巡回・派遣するとともに区専属の臨床心理士を配置することによって、区における教育相談事業として拡充する。 また、福祉的課題をかかえた児童生徒及びその家庭に対し、関係機関等のネットワークを通じた福祉施策の的確な活用など、多様な支援方法を用いて課題解決に向けた対応を行う。 ○ スクールソーシャルワーカー ・ 1人配置（1日6時間、176日従事） ・ 区内17校園を巡回するとともに、学校園からの要請に基づき派遣。 ・ 教職員等を対象とした研修の実施 ○ 臨床心理士（新） ・ 1人配置（1日6時間、35日従事） ・ 区内小学校11校からの要請に基づき派遣
	・ 業績の目標 本事業が「有効」と回答した学校園の割合を80%以上にする。
	【予算算定額：3,885千円】
3) 学校ボランティア事業（発達障がいサポート）	・ H28取組内容 区内市立小・中学校及び幼稚園に在籍する発達障がい等のある児童生徒のうち、行動面で特に支援が必要とされるADHD等の重度な児童生徒に対し、遠足や社会見学等の校外学習や放課後の課外活動である部活動等をサポートするため、地域の人材を活用した発達障がいサポーターを配置する。 ・ 発達障がいサポーターの配置時間：3,546時間
	・ 業績の目標 本事業が「有効」と回答した発達障がいサポーター配置校園の割合：80%以上

3 子どもの学ぶ力、生きる力の育成

具 体 的 取 組

【予算算定額： 577千円】

4) 学校ボランティア事業
(日本語サポート等)

・ H28取組内容

区内市立小・中学校に在籍する日本語指導が必要な児童・生徒に対して、学習をサポートするため、地域の人材を活用したサポーターを配置する。
絵本ひろばのコーディネーターやファシリテーターとともにボランティアを学校に派遣し、学校での絵本ひろばの開催を促進する。

○ **日本語教育サポーターの配置（新）** 対象者数：8人以上

○ 学校における絵本ひろばの開催：3校以上

・ 業績の目標

日本語サポーターなどのボランティアサポーターへの配置・派遣が「有効」と回答したサポーター実施校の割合：70%以上

【予算算定額： 670千円】

5) 学校ボランティア事業
(別室登校等サポーター派遣)

・ H28取組内容

別室登校等サポーターによる不登校児童生徒等への対応策を実施する。

・ 不登校児童生徒等への別室登校等サポーターの配置：640 h

・ 業績の目標

別室登校等サポート事業が「有効」と回答したサポーター配置校の割合：80%以上

【予算算定額： 399千円】

6) 港区サードプレイス事業
(こどもの居場所づくり)

・ H28取組内容

子どもに家庭でも学校でもない、地域のボランティアが運営する第3の居場所（サードプレイス）を提供することによって、自由に話したり学習したりできる環境や、地域の人々とのつながりの中で、生きる力・学ぶ力を育む。

・ 居場所の開設：年間を通して月1回以上
(スタッフの都合で可能な限り、平日の午後または夕方を含めて月2回開催を目指す)

・ 業績の目標

複数回の参加者の割合：50%以上

【予算算定額： 175千円】

7) 家庭学習促進事業

・ H28取組内容

家庭学習の促進を図るため、平成26年度に「港区版 家庭学習の手引き」を作成。平成28年度の新小学1年生に対し、これを配布し、学校・地域等と連携して活用を図る。

・ 家庭学習の手引き 印刷

・ 業績の目標

全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国平均に対する差が、区内の全小学校（11学校）において前年に比べて上回る。

【予算算定額： 26千円】

8) 地域の強みを活かした
教育力向上事業（絵本によるこどもの読書活動の促進）

・ H28取組内容

区内の学校図書館や地域の公共施設等において、地域の主体的な「絵本ひろば」の開催を促進することで、子どもの主体的な読書活動を推進する。

・ 絵本による読書活動促進スタートアップ事業の実施
絵本ひろばの協働開催3回
・ 絵本ひろば連絡会の開催

・ 業績の目標

地域が主体的に実施する絵本ひろばの回数：3回

経営課題のための戦略

3 子どもの学ぶ力、生きる力の育成

具 体 的 取 組

【予算算定額：58千円】

9) 地域の強みを活かした教育力向上事業（こどもサイエンスカフェ）

・ H28取組内容

区内の教育資源を有する施設と連携するなど、地域の強みを活かした社会教育の機会を提供する。

- ・ こどもサイエンスカフェの実施 4回

・ 業績の目標

参加してよかったと回答した参加者の割合70%以上。

【予算算定額：646千円】

10) 地域の強みを活かした教育力向上事業（学校協働によるスケート教室など）

・ H28取組内容

区内の教育資源を有する施設（大阪プール、海遊館など）と活用し、地域の強みを活かした学校横断的な事業展開によるメリットを活かした手法で、特色ある学校教育を目指す。

- ・ スケート教室を学校との協働で実施 （新）
- ・ 海遊館生物教室を学校との協働で実施 （新）

・ 業績の目標

実施校へのアンケートで「これらの取組みによる体験を通し、興味・関心を高め、体力・運動能力や学力の向上に有効であった」という回答が7割以上

【予算算定額：3,588千円 財源：（一財）自治体国際化協会の助成金】

11) 多文化共生教育スタートアップ事業

・ H28取組内容

区役所、区保健福祉センター、学校、地域のNPO等が多文化共生教育を軸に連携して、外国籍住民のエンパワメント及び日本国籍住民の多文化共生の意識を醸成し、多様な人々がその能力を発揮できる多文化共生のまちづくりを推進するため、以下の有機的に連携した取組みを実施することによって、教育を軸に多文化共生を推進するシステムを構築するためのスタートアップ事業を行う。

- ・ 帰国・来日等のこどもへの学習サポート等派遣 （新）
学校の要請に応じ、通訳派遣を行う。
- ・ こども多文化カフェ
留学生や区内の外国籍住民と小中学生が、日本語以外の言語でカフェ感覚で気軽に交流し、多文化共生の意識を醸成する「こども多文化カフェ」を、区内2カ所で24回程度を実施

・ 業績の目標

学習サポート等派遣を実施した学校から「有効」との回答する割合：70%以上

こども多文化カフェへの参加児童等のアンケートで「多文化共生に関心をもった」と回答する割合：60%以上

【予算算定額：403千円】

12) 青少年の健全育成の推進

・ H28取組内容

青少年の健全育成や非行防止を図るため、青少年指導員による街頭指導、夜間巡視、青少年福祉委員による社会環境浄化活動等に加えて、各中学校区の「青少年育成推進会議」における研修会の開催などを支援し、学校・家庭・地域が協働・連携して取り組む活動を推進する。

- ・ 「青少年育成推進会議」における夜間巡視等の取り組み：各中学校下で5回
- ・ 「青少年育成推進会議」における意見交換会・研修会：1回
- ・ 「こども110番の家」事業の協力家庭・事業所の新規登録の促進。

・ 業績の目標

青少年育成推進会議の参加者がアンケートで、「青少年育成推進活動が有意義である」と回答した者の割合：70%